

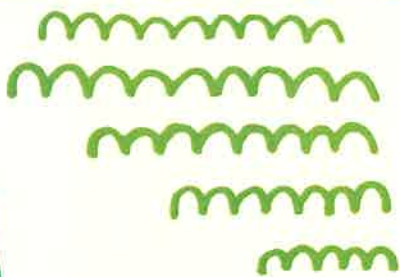
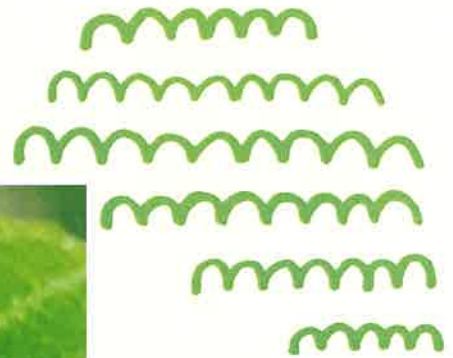
ホタルプロジェクトの活動を
その時期に応じて紹介します

ホタル だより

創刊号 2026.04

Vol.05

発刊 三国木部ホタル研究所



三国木部まちづくり協議会

ビオトープ公園再生プロジェクトの経過報告



プロジェクトの進捗状況

三国木部ホタル研究所
森岡 正己

令和4年4月から始まった「ビオトープ公園再生プロジェクト」は5年目を迎えいよいよ最終年度に入りました。

本プロジェクトは、坂井市の施策であります「寄付市民参画制度(いわゆる『ふるさと納税』)」を活用して取り組み4年目を終えました。そして本年度(令和8年度)はいよいよハード面での事業が最終局面を迎えております。連日大型土木建設機械がビオトープ内で大きなエンジン音を響かせてホタルの幼虫が長期間住み込む「水路」の建設を行っています。

地元住民からは「いよいよ始まったネ」「いつ完成するんや」等期待を込めた声掛けを数多くいただいております。水路等の土木工事も学校田、貯水池と終え、現在は水路の建設を行っています。道路を車で走行中にもその様子をご覧いただけます。なお、令和7年度が水路工事の年でもあったため、ホタルの幼虫を放流することができませんでした。そのため、令和6年5月の終わりから6月中旬にかけて飛んだゲンジボタルの成虫は、今年の春先は見ることができません。

本年度(令和8年度)は、ホタルの季節になりましたらゲンジボタルの成虫を採取し、オス、メスを産卵箱に入れ卵を産ませるところから人工飼育をし、令和9年のホタルの季節には是非ともゲンジボタルが飛かう姿が見られることを期待をしております。そして最終年度の本年は、芝生広場の完成やビオトープ入口の案内看板を設置しプロジェクトを完成させる計画です。

地域の皆様いよいよホタルが飛び交うビオトープの準備が整いました。ビオトープを中心にした交流人口が拡大し、更にそのことが地域活性化につながるものと確信し、皆様方のご参加を心よりお待ちしております。



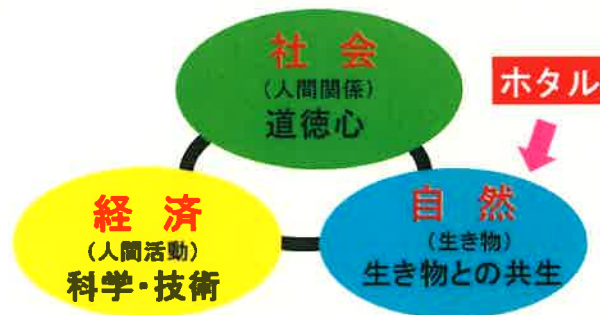
今、なぜホタル再生なのか！

NPO日本ホタル再生ネット
理事長 草桶 秀夫

ホタルは、初夏の風物詩として子供から大人まで昔から日本人に親しまれてきました。暗闇の中に光る様は自然からの感動であり、心の安らぎを与えてくれます。

最近では、ホタルを生き物の指標とする環境保全とまちづくりが日本各地で進められ、二酸化炭素増大による地球温暖化と気象変動は、地球環境に多大な影響を与えています。また、人間の生活や産業活動によって、生活排水や工業廃水が川に流れ込み、さらには海を汚染しています。また、河川の汚染、森林の破壊、農薬散布による環境・人への影響など環境的・社会的問題が叫ばれています。ホタルの再生は、これらの問題解決につながるものと考えます。

3つの人間の関わり



図のように、人間の関わりには、大きく見て3つあると言われています。20世紀は、科学・技術を基盤とし、この3つ目の自然を無視した経済成長中心主義の時代であったと考えられます。今世紀は、生き物との共生による持続可能な開発による地球環境循環型経済社会の構築に取り組む時代ではないだろうかと考えます。日本を代表する世界的な経済学者でノーベル賞候補者にもなった宇沢弘文(1928年～2014年、シカゴ大学教授、東京大学教授他、文化勲章受章者)は、「経済と人間の旅」という著書の中で「日本は戦後復興をばねに驚異的な経済成長を遂げ、先進国の仲間入りを果たして明治以来の夢が実現した。しかしその過程で美しい自然は失われ、豊かな自然とのかかわりの中で築きあげてきた日本の地域社会は無残にも崩壊しつつある。」と述べています。

ホタルの再生を通じて私が伝えたいことは、1つには、ホタルの光輝く素晴らしい自然からの感動を後世に残すべき責任を共有するコミュニケーションの場をもちたいこと。2つには、社会のために尽くすという忘己的社会貢献活動(“忘己利他の精神”)の輪を広めたいことです。これらの2つの輪が広がれば、地球にやさしい、安全・安心な環境循環型社会の構築の礎になると信じたいものです。最後に、「ホタルを生き物の指標とする自然の再生と安全・安心な社会の構築に努め、ホタル文化を守り、以て人と生き物が共生する地球環境の保全に貢献します。」と意思を新たにしております。

令和7年度 事業計画進捗状況

3月▶5月

令和7年 3月 5日(木) 「生物ぎょうさん里村」の認定(福井県)

5月 9日(金) 三国南小学校へ稲作に関する出前授業

5月15日(火) 三国南小学校体験学習 (稲作、田植え)

3月5日(木) 「生物ぎょうさん里村認定」

三国木部ホテル研究所は、福井県がカエルやトンボ、水草などの多様な生き物を守り育てる田んぼづくりに取り組む団体、地域「生物ぎょうさん里村」に認定されました。



5月9日(金) 稲作に関する出前授業

南小学校5年生 30名参加

三国南小学校5年生へ出前授業を行った。米作りを体験する前に種まきから収穫までの美味しいお米ができるまでの1年間の流れを教わりました。



5月15日(火) 稲作体験 田植え 三国南小学校5年生 30名参加

今年はビオトープ公園が整備中のため地域の方の田んぼをお借りして田植えを実施しました。JAや地域の方々に、昔ながらの手法を教えていただき、手で苗を植えました。子どもたちは元気いっぱい泥んこになりながら、楽しく取り組んでいました。ふだん食べているごはんが、どうやって作られているのかを学ぶ良い機会となりました。



6月▶



令和7年 6月 7日(火) 出前講座「ECOアクションキッズさかい」

6月 7日(火) ゲンジボタル鑑賞会(松岡、吉野地区)

6月16日(火) ホタル採取(あわら市)

6月17日(火) ホタル人工飼育開始(三国木部コミュニティセンター内)

6月21日(土) ゲンジボタル鑑賞会(福井市美山町)

6月7日(火) 坂井市主催講座「ECOアクションキッズさかい」坂井市親子50名参加
遊びながら環境について学べる体験型活動。第1回のテーマは「ホタルの住む地域は何がちがう？」を三国木部が担当しました。学習の後、松岡町吉野地区へ実際に出かけホタル観賞に出かけさらに理解を深めました。参加者は美しく光るホタルを観賞し感動していました。



6月17日(木) ホタル人工飼育開始

あわら市にて雄と雌を採取したゲンジボタルを虫かごに入れ、たまごを産ませコミュニティセンター内で大事に飼育を開始する。



6月21日(土) ゲンジボタル観賞会
(福井市美山地区)18名参加

ゲンジボタルが乱舞している美山地区を訪れ幻想的なホタルの光を楽しむことができ、周辺の自然豊かな環境を観察しました。



令和7年度 事業計画進捗状況

7月▶8月

令和7年 7月 4日(金) 第1回ごみ減量に関するワークショップ(坂井市主催)

7月 5日(土) ヒメボタル宿泊研修会(大野市打波地区)

7月18日(金) 第1回ゼロカーボンワークショップに参加(坂井市主催)

8月 1日(金) 第2回ごみ減量に関するワークショップ(坂井市主催)

8月 8日(金) 第2回ゼロカーボンワークショップに参加(坂井市主催)

8月29日(金) 第3回ゼロカーボンワークショップに参加(坂井市主催)

7月~10月 坂井市主催
ごみ減量に関するワークショップに参加
環境問題への理解度を高めました。

7月~11月 坂井市主催
ゼロカーボンワークショップに参加
地球温暖化を自分事と捉え家庭や地域に
できることを考える良い機会になりました。



7月5日(土) ヒメボタル宿泊研修会
(大野市打波地区)

大野市打波地区は、初夏にヒメボタルが鑑賞できるスポット。ヒメボタルを鑑賞し、ホテルの生態、魅力などについて学んだ。





▶9月

令和7年 9月27日(土) 第4回ゼロカーボンワークショップに参加(坂井市主催)

9月16日(土) 三国南小学校体験学習(稲作、稲刈)

9月19日(土) 第5回ゼロカーボンワークショップに参加(坂井市主催)

9月27日(土) ふるさと環境フェアに参加(福井県主催)

9月16日(土)

稲作体験 稲刈

三国南小学校5年生 30名参加

鎌で稲を刈る昔ながらの稲刈や、はざがけ・脱穀作業を体験しました。農作業の大変さと楽しさを知り、食べ物への感謝の気持ちが深まったようです。



サポーターズ会議 月1回開催



令和7年10月17日(金) 第3回ごみ減量に関するワークショップ(坂井市主催)

10月23日(木) 北信越ホテル研修会交流会参加(富山県)

11月15日(土) エコアクションさかい九頭竜川河口域清掃活動に参加

11月23日(土) ゼロカーボンシンポジウム参加(坂井市主催)

7月4日(金)

エコアクションさかい 九頭竜川河口部
清掃活動に参加 いざき親水公園にて地域の
美化活動にも取り組んでいます。
九頭竜川の河口を清掃することで海の環境
保全への意識を高めました。



11月15日(土)

坂井市主催「ゼロカーボンシンポジウム」
森岡所長が地球温暖化の課題解決策について
具体的なプランを発表しました。





令和8年3月4日(水) 出前講座「ウミボタルの発光実験」 三国南小学校5年生



出前授業では5年生29名がウミボタルを使い光る実験に挑戦しました！

実験1:ウミボタルをすりつぶしたものに水を加えると

光る？光らない？

➡光る

実験2:実験1に洗剤を加えるとどうなる？

➡発光しない

みんなの感想

- ・きれいに光っていてすごかった。
- ・ホタルは黄色と緑に光り、ウミボタルは青色に光ることがわかった。
- ・ホタルが発光して自分の居場所を示していることがわかった。
- ・すりつぶしたウミホタルに洗剤を入れると光は消えてしまうことがわかった。
- ・ホタルの住める自然環境をこわしてはいけないとわかった。他

まとめ

洗剤など、人間が作り出したものを自然界に出すと、ホタルなどの生き物が生活できなくなる。

1年間のホタル飼育の記録



6/15 ホタル研究所精悦部隊出動！
ホタル採取に出発！



大きさと
発生殖器をみれば
雄、雌の仕分け
はお手の物！



6/16 採取したホタルをチェック！
手際よく繁殖装置へ移動させました。



7月 コケを観察すると0.5mm程の
小さなたまごを発見！



産卵装置に
メスとオスを
いれます。



7月 卵から2mm程の幼虫に孵化し、
スポットで仕分けします。



9月～ 生まれた幼虫は水の中でくらし
カワニナを食べて大きくなります。
冬を超えて何回も脱皮します。



肉眼でも確認で
きるように！
水温は冷却装置
を使い24度に
保っています。

3月～ 繁殖装置の中の幼虫は
3cm程に成長していました。今年
度は幼虫は水路への放流ではな
く水槽内で陸地を作り上陸実験
をします。
その様子がコミセン内にあるホタ
ルのお部屋で観察することがで
きます。

コミュニティセンター内の
ほたるのおへやでは、
6月～3月まで幼虫を飼育し
ている様子を見学できます。
ホタルの生態や豆知識も展
示しています。
ぜひ遊びに来てください！

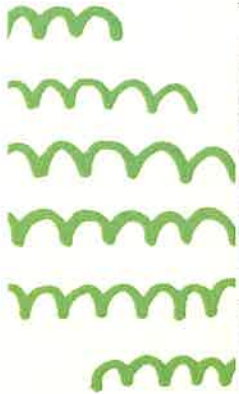


おかげさまで

ビオトープ公園もうすぐ完成！！

ビオトープ公園では、ホタルの生育により良い環境づくりのため大規模工事を進めています。完成後は、自然とふれあえる魅力ある場所になる予定です。しばらくの間お待ちくださいますようお願いいたします。

本工事期間 令和7年1月～令和8年10月予定



ホタルプロジェクト
サポーターズ募集中！

詳しくは
三国木部コミュニティセンター
まで



三国木部まちづくり協議会

三国木部ホタル研究所

〒913-0001

坂井市三国町楽園30-1

(三国木部コミュニティセンター内)

TEL 0776-81-2778

プロジェクトの
様子を発信中！



mikunikibe.htp
フォローしてね。